

平成30年度 千葉県立佐倉高等学校 学校評価

アンケートの回答率は、四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員アンケート、保は保護者アンケート、生は生徒アンケート)		アンケート回答率 肯定的回答 否定的回答		自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まに課題改善のため)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
学校経営	高い倫理観と危機管理意識を保持して教育活動を展開するとともに、SSH・SGHの円滑な運営を図る。	①職員間のコミュニケーションを充実させるとともに、日常業務について危機管理の視点から自己点検をする機会を設け、円滑な業務遂行と業務改善を図る。	①職員アンケートの結果及び実施状況	職 9	学校の教育課題について、日ごろ教職員間でよく話し合っている。	53.6	46.4	① 日常業務を自己点検し改善を図ることを進めたが、職員間で話し合いをする時間の確保については46%の職員が不十分と捉えている。	① ICTを活用して連絡事項の伝達を行い学年の課題を共有する時間を確保する。分掌や学年間の課題についてもICTを活用し共有を図る。	① 朝の打合せの時間を短くしたり毎日行なうことをやめるなどしたりして、職員間の話し合う時間を増やすとよいのではないか。	① ICTを活用して業務改善を図るとともに、情報共有を図ることで、職員が課題解決に向けて円滑に話し合いができるようにする。
		②分掌、学年、教科の連携を強化し、進学指導重点校・SGH指定校としての取組の質的向上を図るとともに、SSHの経過措置における教育の質の確保と2期目指定獲得を目指す。	②生徒・保護者によるアンケートの満足度が95%以上であること。	生 1	佐倉高校に入学して良かったと思う。	91.6	8.4	② 指定校としての取組については概ね順調に進んでいる。保護者、生徒の学校への満足度は90%に達している。	② 探究学習の基礎について学ぶ時間を設定し学校全体で取り組み、SGH・SSH事業の質的向上を図る。	② 生徒・保護者の期待度が大きいので、期待に応えられる教育活動の展開をお願いする。	② 探究学習の基礎を学ぶ時間を充実させ、学校全体でSGH・SSH事業の質的向上に取り組むとともに、他の指定事業との相乗効果を図る。
		③生徒の安全が確保された教育環境を整備する。	③安全点検表及び修繕状況の確認及び生徒、保護者によるアンケートの結果	保 1	佐倉高校に入学させて良かったと思う。	97.7	2.6				
				生 4	佐倉高校の学習環境は整備され満足している。	58.9	41.1	③ 学校安全点検は計画どおり実施し、危険箇所、破損箇所等については、速やかに改修する等改善に向けて取り組んだ。	③ 学校安全点検を的確に実施するとともに、生徒からも情報を収集し、危険箇所・破損箇所等を早期発見し修繕を可能な限り速やかに行う。	③ 改善策のとおりでよい。	③ 学校安全点検を的確に実施するとともに、日常的に職員・生徒から情報を収集し、危険箇所・破損箇所破損箇所等の修繕を可能な限り速やかに行う。
				生 15	佐倉高校は、校舎などの施設を衛生的に管理している。	49.4	50.5				
				保 18	校舎などの施設は衛生的に管理されている。	57.6	42.4				
		④教育活動の成果をホームページ等を通じて最大限にアピールする。	④ホームページの掲載内容と更新状況の確認（月5回以上の更新）	生 20	私は、学校のホームページをよく活用している。	24.8	75.2	④ ホームページを改善するとともに、更新を月20回程度に増やした。保護者の肯定的回答率が昨年度から17.4ポイント上昇した。	④ 引き続きホームページによる発信は今年度並みに行う。より充実させるために、職員の広報に係る意識向上を図る。	④ ホームページはとてよくなったので、引き続き情報を的確に得られるようにしてほしい。	④ ホームページによる発信は、できるだけ速く的確に行うとともに、より見やすくわかりやすい内容にする。
				保 19	学校のホームページ等、情報発信は適切に行われている。	86.7	13.3				
学習指導	佐倉高流アクティブラーニングの質的向上を図るとともに、論理的思考力・発信力の高い将来のグローバルリーダーを育成するために創意工夫し、生徒・保護者の85%が満足する授業を行う。	①生徒の知的好奇心を一層喚起するとともに、生徒が主体的に目標を設定し自らの学びを振り返ることのできる授業を展開する。	①生徒、保護者による授業評価アンケートの満足度が85%以上であること。	生 8	私は授業内容に興味関心がわいている。	84.1	15.9	① 全科目の授業において科目の特性に合わせた活動を取り入れるとともに、学習を振り返る機会を設けた。生徒及び保護者の満足度は85%を超えており目標は達成した。	① 生徒が自分自身で学びを振り返るための工夫を各教科・科目の特性に合わせて一層充実させるとともに、より質の高い授業を展開する。	① 改善策のとおりでよい。	① 生徒の主体的な学びが実現するよう授業改善に取り組むとともに、生徒が自己の学びの状態を確認できるよう工夫する。
				生 10	教師の説明する内容は分かりやすく、理解しやすい。	87.4	12.6				
				保 7	授業はよく工夫されていてわかりやすいと思う。	88.3	11.8				
		②家庭学習に取り組ませる工夫をするとともにSSH・SGH事業に係る学習活動を充実させ、学習の定着度を高めるとともに深く学ぼうとする姿勢を育成する。	②生徒による授業評価アンケート結果	生 9	私は授業に集中し頭脳を活発に働かせている。	87.3	12.7	② 予習・復習による学習を前提として、授業内容・教材・教え方等について工夫した。授業において87.3%の生徒が思考を深めている。	② 家庭学習において授業における深い学びに結びつくための知識の習得を課すとともに、生徒の思考が深まる授業展開に努める。	② 改善策のとおりでよい。	② 家庭学習と授業での学習の関係をより明確にして学習に取り組ませるとともに、生徒が思考を深めることのできる授業となるよう工夫する。
				保 6	授業をとおして生徒の学力は着実に向上している。	87.3	13.6				
		③積極的な授業研究、公開授業、研修等を通して、質の高い指導方法や生徒が主体的に学びを振り返ることのできる評価方法を研究し、授業力を高める。	③生徒による授業評価アンケートの結果及び授業研究や研修等の実施状況	生 10	教師の説明する内容は分かりやすく、理解しやすい。	87.4	12.6	③ 校内授業研修週間を年2回設けるとともに、職員研修等を増やした。生徒の満足度は90.3%であり昨年度より1.7ポイント上昇した。	③ 校内授業研修を引き続き行い相互参観・相互評価を引き続き行う。また、英語教育拠点校として本校の授業を発信し、外部からの評価等も得て授業力向上に結びつける。	③ 改善方策のとおりで良い。	③ 授業力を向上させるために授業の相互参観・相互評価を引き続き行う等、校内研修を充実させるとともに、本校の授業を発信し外部からの評価等も得て授業改善に取り組む。
				生 11	教師は授業内容や展開の仕方、教材等、教え方等を工夫している。	90.3	9.7				

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員アンケート、保は保護者アンケート、生は生徒アンケート)		アンケート回答率		自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の弱みを踏まえた課題改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ			
				肯定的 回答	否定的 回答									
生徒指導	基本的生活習慣を確立させ、コミュニケーション能力や人間関係調整能力を高めるとともに、生徒のメンタルケアに全ての教職員が取り組めるよう、教育相談体制を一層充実させる。	①挨拶指導や通学マナーを身に付けさせる指導を行うとともに自己管理能力を育成する。	①指導の実施回数・実施状況、保護者、生徒のアンケートの結果及び地域の意見	生	22	私は、日常生活で学校の規則を守り、挨拶ができています。	92.1	7.9	① 登下校指導週間を年間3回設け、挨拶指導や登下校の指導に当たった。PTAによる下校指導も実施した。	① 通学マナーについてはミニ集会で指摘されたので、9月以降重点的に指導を行なった。引き続き指導を行ない生徒の安全意識を高める。	① 通学マナー等は、良好である。運転者の方からの苦情もあるようだが、道路事情を考えるとやむを得ないと思われる。生徒が自分を守る意識を高めてほしい。	① 登下校指導を今年度に引き続き実施するとともに、生徒の安全意識を高める指導を行う。		
				生	23	私は、交通ルール・乗車マナーをわきまえて実践している。	96.7	3.3						
				保	15	基本的な生活習慣が身に付くような指導が行われている。	86.0	14.0						
		②特別活動や部活動等、多様な体験活動のできる機会を設け、集団の中の一員としての自覚を持たせる。	②生徒、保護者によるアンケートの結果	生	14	部活動や学校行事等は充実していて学校生活は楽しい。	90.1	10.0	② 特別活動、部活動及びSSH、SGH事業等を通し多様な体験ができるよう工夫した。生徒・保護者の満足度も90%を超えている。	② SSH、SGHに係る活動については、今後も体験活動を多く取り入れ他者に配慮する意識などを高める。	② 改善策のとおりでよい。	② SSH・SGHに係る活動に積極的に校外での活動や体験活動を取り入れる。		
				生	15	ホームルーム活動は活発で、クラス全体で関わっている。	83.5	16.5						
				保	13	部活動や学校行事等は活発である。	95.5	4.5						
③個人面談、保護者面談及び生徒の調査等を行い、いじめや生徒の抱える課題を早期発見し、早期対応する。	③個人面談、保護者面談及び生徒の実態調査の結果						③ 全てのホームルームで前期末までに個人面談及び保護者面談を実施するとともに、生徒の生活実態等に係る調査を行った。また、いじめの把握状況調査を9月と1月に実施した。	③ 今後も面談及び調査等を実施し生徒の実態の把握に努める。また、生徒が抱える課題については速やかに組織的に対応する。	③ 生徒の人間関係がよくいじめについてはほとんどないと思われる。生徒の抱える課題については対応をお願いしたい。	③ 定期的に面談及び調査等を実施し生徒の実態を把握する。いじめを含む生徒が抱える課題を早期発見し速やかに組織的に対応する。				
④学年、教育相談委員会、関係機関との連携を強化し、教育相談体制を充実させる。	④教育相談委員会の実施状況及び教育相談室・教育相談に係る保健室の利用数	職	17	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員と相談できる。	84.7	15.3	④ 生徒の相談内容に応じて教育相談委員会で対応するとともに、外部のスクールカウンセラーと連携することができた。29名の生徒が教育相談室及び保健室を活用し相談した。	④ 生徒の相談内容が容易に解決できないものになっているとともに相談者数が増えていることから、教育相談委員会を中心に関係職員と情報を共有し連携して対応する。また、外部機関とも連携を密にして対応する。	④ 企業でも心の問題は大きな課題であり、カウンセラーを配置してもらえるとうよい。	④ 心の問題について早期対応早期解決できるよう職員、家庭、スクールカウンセラー等外部機関との連携を一層密にして組織的に対応する。				
		生	17	悩みなどの相談に乗ってくれる先生が多くいて安心できる。	77.4	22.6								
キャリア教育	将来の目標を明確にすることができるよう、ガイダンス機能や講演会・相談活動等を充実させるとともに、進学指導重点校として第一志望合格を保証する現役主義の進路指導を充実させる。	①進路指導に関する情報を生徒及び保護者に的確に発信し、家庭との連携を図る。	①生徒、保護者によるアンケートの結果及び情報提供の内容と実施回数	保	11	学校は、進路についての情報をよく保護者に提供している。	85.3	14.7	① 生徒向け進路説明会を学年ごとに、保護者対象の進路説明会を各学年2回ずつ実施した。生徒の満足度は87.1％、保護者は、85.3％に達した。	① 高大接続改革等を踏まえ、生徒及び保護者には随時新しい情報の提供と具体的な対応等について説明するなど、説明会の質を向上させる。	① 改善方策のとおりで良い。	① 説明会の内容について不断の見直しを図り、生徒及び保護者には高大接続の在り方など、随時新しい情報について説明する。		
				生	12	佐倉高校は、進路についての情報をよく知らせてくれる。	87.1	12.9						
		②職員研修を充実させるとともに、教科・学年・分掌が連携し個に応じた指導を充実させる。	②職員研修の実施状況及び進学講習の実施状況	職	15	生徒の希望と適性を生かす進路指導ができています。	88.7	11.3	② 職員研修を学年ごとに4回以上実施した。進学講習は前期17、夏季休業中28、後期18講座を設けて実施した。	② 進路に係る職員研修については、最新の進路情報を共有し全職員が進路指導に当たれるようにする。進学講習については、開講数は今年度程度とし今年度入試を踏まえた講習を行なう。	② より一層充実させてほしい。	② 的確な指導ができるよう職員研修を一層充実させる。進学講習については、開講数は今年度程度とし、個別については、個々の希望や適性に応じた指導を丁寧に行う。		
				生	13	生徒の適性や希望を生かした適切な進路指導が行われている。	84.3	15.6						
				保	12	生徒の適性や希望を生かした適切な進路指導が行われている。	85.9	14.1						
		③講演会等を通して、勤労観・職業観を確立し、自己の進路について考えを深めさせる。	③各種講演会の実施回数、参加人数及び実施状況						③ 第1学年は、講演会を3回(大学教授(9月に2回)、海外で活躍している方(11月))、第2学年は、大学教授の講演等を2回(9月に2回)実施した。	③ SSH・SGHに係る講演会や卒業生を活用した講演会等により、生徒の勤労観・職業観の確立に努める。	③ より一層の充実を望む。	③ SSH・SGHに係る講演会や体験学習等と連携しながら、勤労観や職業観を確立させる機会を充実させる。		
特色ある活動	SSHとSGHの取組を充実させる。	①課題研究を通して、論理的思考力と英語による発信力を一層高める。	①年度末の課題研究の発表の状況						① 海外研修では、英語による課題研究発表やディスカッションを実施した。SGHに係る活動では、1年生全員が英語で校内発表を行った。	① 海外研修については内容を改善し、課題研究の内容が深まるよう努める。また、論理的思考力を高め研究が深まるよう指導する。	① 海外研修は大変有意義であるので、参加者を増やすことができれば、お願いしたい。	① 海外研修については、実施してきた内容を見直し、課題研究が一層深まる研修となるよう改善する。		
				②課題研究の評価方法を確立させる。	②課題研究の評価の妥当性						② SGH事業において前年度の評価方法に改善を加え、生徒が具体的な目標を定め、具体的な評価を行い自分自身の学習課題を見つけることができるルーブリック評価の開発を進めた。	② 生徒が主体的に目標設定を行い、自己の学習状況を確認し、学習を見直せるようルーブリック評価を改善する。	② 改善策のとおりでよい。	② ルーブリック評価を研究し、生徒が自己の学習状況を確認でき、次の学習に役立つ評価となるよう質を高め汎用性のあるものにする。
				③SSHとSGHの連携を一層深める。	③学科や教科を超えた取組の状況						③ SGHに係る課題研究において、SSHのノウハウを生かした支援を行なう等連携を深めた。	③ 課題研究の基礎的な学習においては、SSH・SGH共通の授業を実施するとともに、探究学習部を設置し学校全体で取り組む。	③ 改善策のとおりでよい。	③ 探究学習部を中心に探究学習の基礎を学ぶ時間を実施するとともに、課題研究を学校全体で取り組む体制をつくる。